

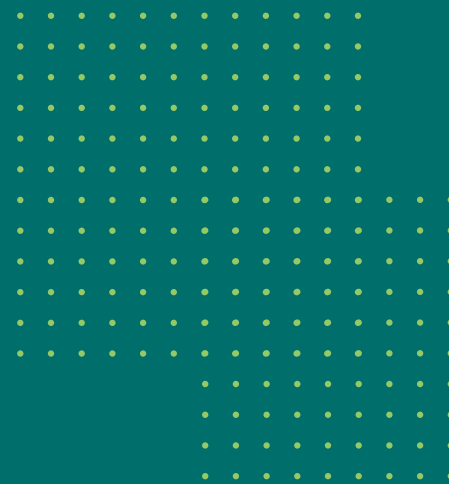


茨城県立石岡第二高等学校
令和7年度チャレンジ・プロジェクト

筑翠ルネサンス Next Stage 探究成果報告書

—地域とともに未来を創る—

2025



目次

➔ 校長挨拶	3
➔ 事業概要	4
➔ 事業報告	5
➔ 探究活動の特色	6
➔ 生活デザイン科×探究	7
➔ 第1学年×探究	8
➔ 第2学年×探究	10
➔ 第3学年×探究	12
➔ 進路×探究	14
➔ 地域×探究	16



筑翠ルネサンスとは？

「筑翠ルネサンス」は、「石岡第二高等学校の伝統を復活・再生させ、新しい時代に対応する教育を創造すること」。本校の同窓会である「筑翠同窓会」の名称に由来している。



チャレンジ・プロジェクトとは？

茨城県では、各学校が校長のリーダーシップの下、「社会に開かれた教育課程」の充実を図りながら、探究的・協働的な学びとともに、それらを担う学校組織マネジメントの向上にチャレンジすることにより、育てたい生徒像の具現化を図る「県立高校等チャレンジ・プロジェクト」の取組を行っている。

校長挨拶

石岡第二高等学校 学校長

津賀 宗充



「筑翠ルネサンス Next Stage」の深化を期した令和7年度、その探究活動の足跡を一冊の報告書として刊行の運びとなりましたことは、本校にとってこの上のない喜びであります。昨年度、本事業の新たな指針を掲げて発刊した創刊号に続き、本号は、3年間に及ぶ探究活動のサイクルを、初めて体系的な学びとして経験した生徒が卒業する節目に編まれた、極めて意義深い一冊となります。

昨年度、前任の鈴木校長は、OECDが提唱する「エージェンシー (agency)」という概念に触れました。それは「自ら考え、主体的に行動し、責任をもって社会変革を実現していく力」を指します。もとより、本校が推進する探究活動の本質は、未知なる社会という荒野へ一歩を踏み出し、地域の方々と対話し、時には峻烈な課題に直面しながらも、自らの仮説を「行動」へと昇華させるプロセスにあります。本年度、生徒たちはこのエージェンシーという概念を単なる理論に留めることなく、地域という広大な学びのフィールドにおいて、見事に具現化してくれました。

生徒たちは幾度となく地域へ足を運び、現場の生の声を汲み取り、課題解決への糸口を模索してまいりました。例えば、全国的に知られる「石岡タロー」を冠した缶バッジの制作・販売や、地域の方々と協働した活性化イベントの開催などは、その象徴的な取組です。これらの活動を通じ、生徒たちは自らの探究の先にいる「人」を強く意識し、自らの想いや提案を届ける実感を手にしました。この「発信」の過程において、生徒たちは社会という鏡に映し出された自己を客観視し、学びが持つ社会的価値を再認識したことでしょう。他者からの期待や評価を真正面から受け止める経験を経て、彼らのエージェンシーは、真に血の通った力強いものへと成長を遂げたのです。

3年間にわたる学びの完結は、一つの到達点であると同時に、次なる舞台への出発点に他なりません。本校の3年間で培われた「考え(問いを立て)」「行動し」「伝える」という3つの力は、予測困難な現代社会を生き抜くための、何物にも代えがたい「一生の武器」となることを確信しております。

結びに、生徒たちの挑戦を温かく見守り、時には厳しくも情愛に満ちたご指導を賜りました自治体、企業、外部機関の皆様、そして何より日頃から本校を支えてくださる地域の皆様に、深甚なる感謝を申し上げます。本校はこれからも、地域と共に歩み、未来を切り拓く地域人材を育成すべく、更なる探究の道を邁進してまいります。今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年度 事業概要



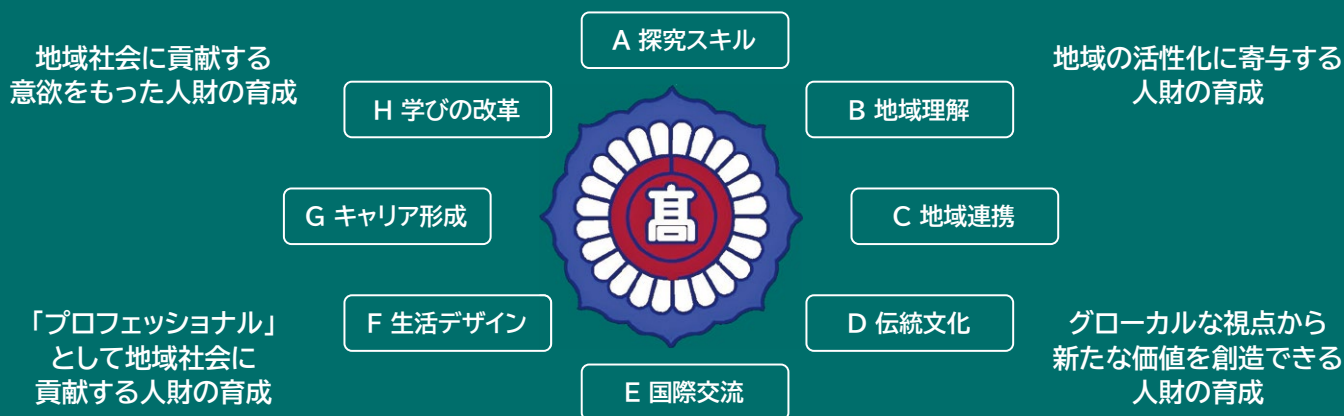
石岡二高はチャレンジ・プロジェクトのなかでも「地域課題の解決を目指した学習を各科目等において体系的に実施し、地域ならではの新しい価値を創造する人財を育成すること」を目指した「地域魅力化型」の重点校に2021(令和3)年から指定されています。

石岡市役所や石岡市教育委員会、近隣教育機関や地元企業などの地域人財と密接に連携し、地域を学びのフィールドとして地域課題の発見と解決に取り組む点に特徴があります。生徒たちは、探究的・協働的な学びと多彩な体験学習を通じて、「考える力」「行動する力」「伝える力」の3つの力を養い、自分の将来について考えを深めていきます。

本事業は全8分野の事業から構成されています。

- A. 講演会などを通じて探究スキルを学ぶ「探究スキル向上プログラム事業」
- B. フィールドワークなどを通じて地域課題解決と魅力の向上に取り組む「地域理解プログラム事業」
- C. 中高連携・高大連携・地域人財バンクを通じた「地域連携事業」
- D. 「グローバル」視点から、地域の伝統文化を学ぶ「伝統文化体験」
- E. 多文化共生を目指す「国際交流事業」
- F. 生活産業にかかわる「プロフェッショナル」を育成するための「生活デザイン科の学びを深める体験学習事業」
- G.アントレプレナーシップを養うとともに、自分の将来のあり方について考える「キャリアデザイン推進事業」
- H. 生徒を支援する教員の資質向上を目指す「学びのスタイル改革事業」です。

これらの事業を通じて社会に開かれた教育課程を実現し、地域を愛し、地域の魅力を高める人財を育成しています。



事業の様子



A 探究学習の意義を考える講演会
中本 正樹 様による講演



A 探究スキルを学ぶワークショップ
石岡青年会議所OBによる壁打ち



B 地域の魅力を発信する動画作成講座
茨城大学生による講座



F 食の専門家による特別講座
中川学園調理技術専門学校による特別講座



G インターンシップ
地元企業での職業体験



G アントレプレナーシップ講演会
地域の起業家による講話

令和7年度 事業報告



実績

事業実施率 全8分野32事業中32事業を実施 **実施率 100%**

予算活用率 令和7年度予算260万円 **活用率94.3%**

評価

学校評価アンケート結果

「総合的な探究の時間に積極的に取り組んでいる」 **83.4%**

生徒感想

探究のテーマに対して深く考える過程で、自分の視点が広がり、新たな発見が多くありました。また、情報を整理し、自分の考えを言葉にする難しさを実感するとともに、それを乗り越えることで理解がより深まることも学びました。

講師感想

どんなテーマであってもアクションすることが徹底されており、実際の経験からの学びが多かったように感じました。一人ひとりが楽しみながら活動した様子がうかがえました。振り返ってみて気づくことも多いはずなので、卒業後に「良い学びと経験をした」と感じることもあると思います。

教員感想

探究学習や外部連携の積み重ねを通じて生徒のコミュニケーション能力やマネジメント力など社会で生きていくための様々な能力を伸長できた。地域のイベントに招待されるなど着実に地域に実績が認められてきている。

成果

地域連携の深まり



高校生発信の地域活性化に地域社会が理解を示し、連携が深まっている。

探究学習を通じた生徒の進路実現



探究学習の成果を総合型選抜でアピールし、進路実現を果たしている。

重点校としての情報発信



県内外の高校から学校視察を受け入れ、重点校としての情報発信を行っている。

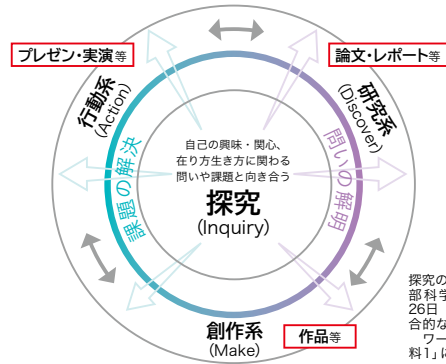
関東商工会議所連合会 「ベスト・アクション表彰」受賞!!

関東商工会議所連合会「ベスト・アクション表彰」は、地域経済の振興やまちづくりに貢献した企業・団体を表彰する制度で、優れた地域貢献活動やイノベーションなどが評価され、各商工会議所の推薦を受けて贈られます。近年では、SDGs関連の取組、地域イベントの実施、中小企業支援の連携強化、商店街の活性化活動などが受賞理由となっています。本校の地域活性化の取組が評価されて受賞となりました。



探究活動の特色

石岡二高の探究活動は石岡市役所や石岡市教育委員会、近隣教育機関や地元企業などの地域人財と密接に連携し、地域を学びのフィールドとして地域課題の発見と解決に取り組む点に特徴があります。探究の中でも特に行動系(Action)と創作系(Make)に重点を置いたカリキュラム構成となっています。



探究の在り方について(文部科学省「令和7年12月26日 教育課程部会 総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ資料1」により作成)

◆石岡二高 探究のあゆみ

2015～ 豊かな体験学習

「和の心」体験学習や国際交流事業などの豊かな体験活動。ドリーム・パス事業にチャレンジして地域の空き店舗を利用したカフェの運営などを実現。

2021～ 地域魅力化型重点校として

茨城県高等学校等チャレンジ・プロジェクトの地域魅力化型重点校に指定。全校を挙げて探究活動への取組みを加速。学校行事「探究の日」やフィールドワークを通じて地域の課題解決に挑戦。

2024～ 探究を通じた進路実現へ

重点校2期目に突入。探究活動を通じて身につけた力を武器に、生徒一人ひとりの進路実現につなげていく新しい段階 (Next Stage) へ。

栄光の軌跡



2022年度
「茨城の魅力を探究し発信する高校生コンテスト」銅賞!



2023年度
IBARAKIドリーム・パス
プレゼンテーション大会 銅賞!



2024年度
「茨城の魅力を探究し発信する高校生コンテスト」自治体特別賞!



2024年度
第17回キャリア教育優良校・
文部科学大臣表彰 受賞!

◆「総合的な探究の時間」の3年間

第1学年

探究の基本的技能を身につけ、自分の興味を掘り下げる。

知る

①

第1学年のテーマは「知る」です。第1学年の探究学習では個人探究を通じて、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」といった、探究の基本的な作法について学んでいきます。個人探究活動を通じて、自分の興味を掘り下げる、つまり自分自身について「知る」ことが目標です。同時に、伝統文化体験など地域の魅力を「知る」様々な体験活動にも取り組んでいきます。

第2学年

自分の興味と社会の課題を結びつけて探究する。

結ぶ

②

第2学年のテーマは「結ぶ」です。1年間を通じて地域社会と自分を結びつけて探究する活動を行います。地域の課題を解決し、魅力を高めるための課題設定を行い、地域に飛び出して現地調査を行います。探究を通じて、①自分と地域社会を「結びつける」こと、②現在の自分と将来の自分を「結びつける」ことが目標です。

第3学年

探究を通じて学んだことを社会に発信する。

伝える

③

第3学年のテーマは「伝える」です。前期は2年間の探究活動を通じて気づいた自分の興味や得意を進路実現に向けて「伝える」トレーニングをしていきます。後期は、探究してきた地域の魅力と課題について、動画や論文などにまとめ、発信します。自分や地域の魅力を積極的に「伝える」ことが目標です。

生活デザイン科×探究

本校は、普通科と生活デザイン科の学科併置校です。豊かな生活をコーディネートする生活デザイン科では、生活産業に関わるプロフェッショナルを育成するために試行錯誤を伴う探究的な学習を積極的に取り入れています。

課題研究

生活デザイン科の3年生では、4つのコースから1つ選択し、主体的・協働的な学習を通して、生活産業に関する課題の発見、解決に取り組む力を養います。



情報コース

ビジネス文書実務検定を通して技術の向上やプレゼンテーションの仕方について探究します。



食物コース

各種コンテストに挑戦することを通して技術の向上を目指し、地域の食材について探究します。



着付けコース

訪問着や振り袖などの和服の着付けや礼法について探究します。



被服コース

自らのデザイン画をもとに、それらを形にしてい く手段を探究します。

専門家による講座

「生活デザイン科の学びを深める体験学習事業」では、衣食住・保育・福祉など生活産業にかかわるプロフェッショナルを育成するために、第一線で活躍する専門家を招いて多彩な体験学習を行っています。これらを通して、教室の中だけでは触れることが出来ない「本物」に触れる機会を多く提供しています。



食に関する地域資源を知る体験学習

イトウ製菓株式会社第二工場と、茨城乳業株式会社を見学しました。ロングセラー商品の誕生秘話や、美味しい商品を生み出すための企業努力について知ることが出来ました。

2025年度の実績

○産業教育デジタルアントレプロジェクト 優勝!

本校生徒2名が参加したチームが優勝しました!

○茨城県高等学校家庭クラブ連盟

第73回研究発表大会「茨城県知事賞」(第1位)受賞!

本校で3年にわたり研究してきた「みんなが知っている味噌をもっと身近にプロジェクト」が、県知事賞を受賞。2026年7月に岐阜で行われる全国大会に参加します!



令和7年度 茨城県高等学校家庭クラブ連盟 第73回研究発表大会



第1学年×探究

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	探究の基本的技能の習得と地域理解・自己理解(個人探究)										
	オリエンテーション	課題設定	探究計画立案	探究ワーク	探究の日(進路探究)	課題再設定 情報収集① 整理・分析①	情報収集② 整理・分析②	まとめ・表現 発表準備	発表準備 成果発表会 予選	探究成果 発表会	振り返り

個人探究について

1年生では、自分の興味・関心を掘り下げて、個人探究を行います。まずは個人探究を通じて「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究のプロセスを理解し、それらを活用できる力を養います。また、本校では、生徒が日常生活の中で積極的に課題発見ができるような環境づくりに力を入れています。何気ない日常から生み出される「やってみようかな」という気持ちを大切に、それらを丁寧に支援することで、生徒一人ひとりの自己肯定感を育んできました。1年生では、2年生以降に行う地域探究にスムーズに移行できるよう、一歩踏み出す力をつけることを最大の目的としています。

個人探究発表会

2月3日(火)本校多目的ホールにて、個人探究発表会を行いました。これは、身の回りの課題を探究テーマとして設定し、1年間を通して取り組んできた個人探究の成果を発表するものです。発表会の前には、グループ単位、クラス単位で発表と選抜を行い、各クラス2名の代表者を決定しました。発表テーマは以下の通りです。

No.	テーマ
①	お腹の音を鳴らないようにするには？
②	人間に感情がある理由
③	Youtuberの仕事はどのようなものか
④	何故ネガティブな思考になるのか、ポジティブになるためには？
⑤	最高最適なやる気の出し方

No.	テーマ
⑥	食べ過ぎの原因と解決方法を考えよう～外食編～
⑦	なぜ子供は生意気な子が多いのか。
⑧	小さい子に上手く寄り添うためにはどうしたら良いのか
⑨	家に居ると作業が進まないのはなぜ？
⑩	減塩のためにできること

② 噛りやすい時間帯「自分」

8月2日～8月16日

調査結果

6:00～10:00 0
10:00～14:00 2
14:00～18:00 2
18:00～22:00 6

合計 10

※最も噛りやすい時間帯は18:00～22:00の間であることがわかった。

3 実態調査

どこから感情が生まれるのか

感情にどのような影響があるのか

感情をコントロールするには

自己評価

自分の将来につなげていきたい

100満点

2 探究の背景・目的

自分はよくネガティブになりがちだから

部活などで1度のミスで落ち込んでしまい次のプレーに支障が出るから

良い例

何もしない

悪い例

スマホやゲーム機をいじる

評価と反省

食事は減ったが、炭水化物を取りすぎている可能性が高いので、炭水化物以外のものもバランスよく取るようにする。

2 探究の背景・目的

近所の子供や、小学生である弟から生意気な言動をとられることがある

なぜ生意気な態度をとってしまうのか？

子供の発達や心理が関係しているのでは？

③ 年長さんクラス(45歳)への寄り添い方

4～5歳になると、言葉も成長して、自分の気持ちを伝えてくれるようになる。

朝の会、帰りの会などで大事なことを伝える際は、短くわかりやすく伝えてあげることが大切。

6 実施

①作業に使うものだけを机の上においてスマホは別のところに置き作業した。

結果のあるものは視界に入れないように隠さなければならぬ。

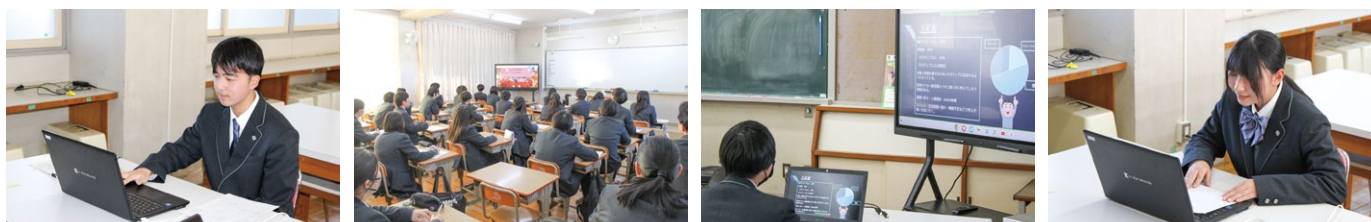
2. 実態調査

石岡二高生140人を対象にアンケートを実施

Q1. 普段減塩を意識していますか？

約9割が「いいえ」と回答

今年度は感染症予防のため、オンラインで実施しました。発表した生徒は、急な変更にも動じることなく、全体に向けて発表する責任感を持って臨んでいました。傾聴した生徒も、日常における疑問や課題の解決につながる発表に熱心に耳を傾けていました。感想においても、「実態調査にしっかり取り組んだことがよく伝わった」など、発表を評価するコメントが多く寄せられました。



■ 国際交流事業

8月6日(水) 東京グローバルゲートウェイ (TGG) にて、1年生4名・2年生8名・3年生2名の計14名が参加し、英語を中心とした体験型プログラムに取り組みました。生徒たちは「日本にいながら留学体験」「ニュース番組を作ろう」「演劇をしよう」の3つの活動を通して、実際に英語で伝える力や協働する姿勢を学びました。授業を担当した講師陣の豊かな個性や表現力に触れ、世界の多様性を感じ取ったという声もありました。英語で話すことの難しさを実感しつつも、「まず発言してみることが大切だということに気づいた」「自分の英語力を知り、今後の学習の方向性が見えた」など、多くの学びと自信につながる機会となりました。今回の体験は、生徒たちが英語をより身近に感じ、新たな挑戦へと踏み出すきっかけとなりました。



■ 伝統文化体験 (校内)

5月13日(火) に実施した伝統文化体験(校内)の目的は、石岡のお囃子をはじめとする伝統芸能を体験することで、自らの国や郷土で継承されてきた伝統文化についての理解を深め、尊重する態度を身につけることです。また、異なる文化や歴史に敬意を払い、地域の方々との交流を深めるだけでなく、これらに立脚する人々と共存



する国際的感覚を養うことも目的としており、タイ人学生との国際交流も行いました。石岡市役所・石岡市文化協会・い組囃子と連携し、6つの「伝統文化」お囃子・華道・三曲・茶道・着付け・日舞を体験しました。

■ 伝統文化体験 (校外)

11月20日(木) 5つの伝統文化をクラス毎に体験してきました。

「着付け」体験：着付けを学び、人々に愛され続けてきた着物を肌で感じながら、浅草周辺を散策し、歴史を学びました。

「屏風」制作：開き方によって4面の絵柄が出てくる不思議な「からくり屏風」を作り、先人達の知恵と工夫に驚き、実際に継承してきた職人の方からお話を聞きました。

「ガラス」加工：日常生活に欠かせないガラス製品の1つとして、コップの表面を削る「サンドブラスト加工」で、自分の好きな図案をコップに表現しました。

「陶芸」体験：ろくろを用いて器を作り、地元笠間の職人の方による手仕事を疑似体験しました。

「飴細工」制作：人々を楽しませる大道芸の側面も持った工芸品として、職人の方の話を聞きながら、楽しく文化を体験することができました。



どの体験も、自分たちが住んでいる茨城・日本で培われてきた「文化」や「仕事」について触れ、楽しみながら、その魅力を知り、一人ひとりが将来の進路選択や日本文化との関わり方について考えることのできた貴重な機会となりました。

第2学年×探究

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年	地域の魅力発見と課題解決に取り組む(グループ別探究)										
	オリエンテーション	探究テーマ設定講演会	課題設定	フィールドワーク I 計画立案	フィールドワーク I (現地調査1回目) 探究の日 (中間発表)	課題再設定 情報収集②	フィールドワーク II 計画立案	フィールドワーク II (現地調査2回目) 整理・分析	情報収集 整理分析 まとめ・表現	まとめ・表現 発表準備	まとめ・表現 発表準備

地域探究について

2年生の探究活動では、学びの視点を「地域」へと広げ、グループで課題に向き合っています。1年生の段階では、生徒それぞれの興味や関心を出発点としてテーマを設定し、個人で探究を進めてきました。2年生ではその経験を踏まえ、「地域をより良くするにはどうすればよいか」を共通の問いとし、実際に地域を訪れることでしか得られない情報をフィールドワークで集めながら探究を行っています。さらに、この学びを後輩へつなげるため、3年生の6月に予定されている探究成果発表会に向けて、日々協力しながら取り組みを重ねています。

主なテーマ

テーマ
灯火フェスタを開催し、石岡のシャッター街を活性化させる！
優しさ循環プロジェクト (あまり布で福笑いを作ろう)
高校生が見た“命のリアル”
石岡駅交流施設をPRして、石岡を有名にしたい
ダチョウ王国を広めよう大作戦!!

など様々な分野(自然・観光・文化・国際・その他)にわたってテーマが設定されています。

活動の様子



地域探究の魅力を知る講演会

4月22日(火)「地域探究の魅力を知る講演会」にて、まちづくりの専門家であり、茨城県まちづくりアドバイザーとして活躍されている茨城王(イバラキング)こと青木智也様を講師にお招きし、地域を題材に探究する意義や、課題発見の視点について学びました。講演では、地域の魅力をどのように見つけ、活用していくかを具体例を交えながら分かりやすくお話しいただきました。また、茨城をテーマにしたラップも披露していただき、生徒たちは楽しみながら学ぶことができました。講演終了後は各教室で振り返りを行い、自分たちの探究活動にどのように生かすかを考えました。



石岡市のまちづくりについて学ぶ講演会

5月27日(火)に、石岡市市長公室政策企画課の方を講師に招き、石岡市の現状と課題・魅力についてご講演いただきました。



生徒の感想

- ・探究活動を調べ学習で終わらせるのではなく、気になる課題に対して「どうしたらよいか」と一歩踏み込むことが大切だと分かりました。
- ・私は石岡市に住んでいますが、まだ知らないことがたくさんあると感じました。これまで「石岡」と聞いてまず思い浮かべるのは「石岡のお祭り」だけでしたが、今後は地域についてもっと調べていこうと思います。
- ・今回の講演を通して、地域の魅力を探る中で課題も見えてくること分かりました。課題を改善すれば、さらに魅力が広まる可能性があることにも気づきました。石岡の魅力だけでなく、課題にも目を向けて調べていきたいと思っています。

■ フィールドワーク(9月実施)

9月4日(木)から10日(水)にかけて、フィールドワークを実施しました。石岡市役所や県内の各店舗を訪問し、校内の学習だけでは得られない現地ならではの情報を収集することを目的とした活動です。実際に地域で働く方々のお話を伺う中で、石岡市の新たな魅力に気づいたり、生産者や店舗の方が商品やサービスに込める思いを知ることができたりと、多くの学びが生まれました。また、現地での体験を通して、自分たちの探究テーマや調査の方向性を見直すきっかけにもなり、今後の探究活動をより深める貴重な機会となりました。



■ フィールドワーク(12月実施)

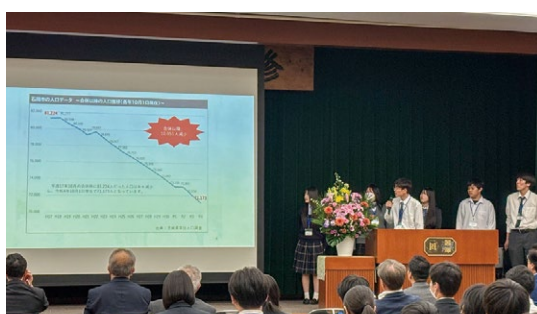
9月のフィールドワーク後にスライドを作成し、中間発表(探究の日)を行いました。中間発表での指摘や気づきをもとに探究の方向性を見直し、新たなフィールドワークを実施しました。得られた成果の整理・分析を進め、まとめ・表現へと発展させつつ、3年生6月の探究成果発表会につなげていきます。



■ 高大連携

石岡市をテーマとした高大連携の学びに参加しました。8月27日(水)・28日(木)には、石岡商工会議所コミュニティセンター「サポート・ワン」で開催された今年で3年目を迎える「石岡市高大連携ワークショップ」に10名が参加し、筑波大学・麗澤大学の学生の指導のもと、石岡一高生・石岡商業生とともに「石岡駅周辺の魅力向上と地域活性化」を課題にグループワークを実施しました。生徒たちは協働して資料を作成し、2日目には成果発表を行いました。

その後、11月2日(日)には麗澤大学、3日(月・祝)には筑波大学で行われた「高大連携シンポジウム2025」にも11名が参加し、ワークショップでまとめた内容をもとにプレゼンテーションを披露しました。全国各地の自治体関係者を前に緊張しながらも堂々と発表し、高校生の意見が地域を動かす力になり得ることを実感したとの声が寄せられました。また、他校生との協働を通して多様な視点に触れ、より深い学びにつながりました。



第3学年×探究

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月
3年	探究成果発表会に向けた準備			進路探究	コンテスト応募動画作成(地域の魅力を動画で発信)				
	オリエンテーション	成果発表会準備	探究成果発表会	コース別進路探究 小論文対策 面接練習	探究の日	企画書作成 フィールドワーク 計画立案	フィールドワーク 計画立案 フィールドワーク (現地取材)	フィールドワーク (現地取材) 動画編集	動画発表会 振り返り

探究成果発表会

「総合的な探究の時間」の集大成として、6月3日(火)に探究成果発表会を実施しました。3年生は1・2年生に向けて発表を行いました。第1部では代表班によるステージ発表、第2部では各班によるポスターセッションを実施しました。各班は、地域の魅力や課題について一生懸命調査した成果を後輩に伝えていました。1・2年生も先輩の発表に熱心に耳を傾け、探究活動に対する意欲を高める契機となりました。また、先輩のテーマを受け継ぐ班も見られ、学年間のつながりの深まりもうかがえました。さらに、地域が抱える課題を知り、それを自分事として捉える生徒の姿も見られました。

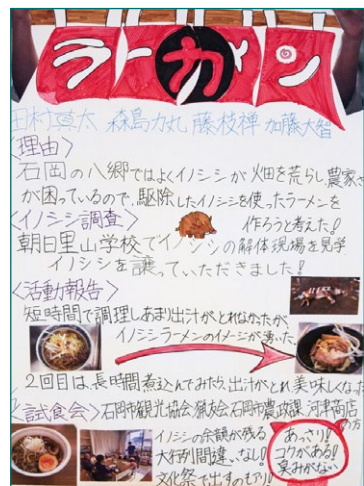
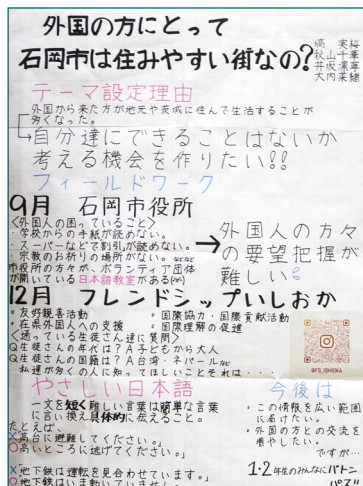
来賓の方からも、「学生の自由なアイデアに触れることができ、刺激を受けました」「発表した生徒の堂々とした姿に感動しました」といった高い評価をいただきました。

全体発表の様子と発表テーマ



テーマ
食べて解決! イノシシ・プロジェクト
石岡サンドを広めよう!
外国人の方にとって石岡市って住みやすい街なの?
酒粕でパックを作ろう!
石岡をVTuberでPRしよう!

ポスターセッションの様子とポスター



■ 進路探究

6月から進路に関する書類作成、面接練習などを行いました。各生徒が卒業後の希望進路実現に向けて熱心に取り組みました。3学年の教員のみならず、学校全体で指導・サポートしました。

■ フィールドワーク

11月中旬から12月にかけて、フィールドワークを実施しました。石岡市をはじめ、周辺地域の施設、店舗にご協力いただき、インタビューや動画撮影等を行いました。実際に現地を訪れ、地域の方々にお話を聞いたことでより深い学びにつながりました。ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。

■ 動画発表会

これまでの探究活動や学習内容を基に、地域の魅力を発信する動画制作に取り組みました。地域の食や施設、観光スポットなど周辺地域の魅力を紹介する動画を作成し、12月16日(火)には各クラスで動画発表会予選を実施しました。さらに、上位2作品を1月13日(火)の代表動画発表会で上映しました。代表動画には最新のAIを活用した作品や社会問題をテーマにした高いメッセージ性を持つ作品もありました。

代表作品の一例



「いばたん2025」最優秀賞・自治体特別賞・ひたちなか海浜鉄道特別賞の三冠を獲得!!

今年度は生徒が作成した動画11作品を「茨城の魅力を探究し発信する高校生コンテスト(通称:いばたん)」に応募しました。同コンテストには高校生1,136人・294チームが応募し、22チームが本選に進出しました。本校からは「石岡タローを全国へ」、「リリー空を飛ぶ!? withリーラ」、「君と、笑って、恋して、石岡で。」、「保護犬と触れ合えるカフェに行ってみた!」の4作品が本選に進み、なかでも「石岡タローを全国へ」は最優秀賞に加え、自治体特別賞(石岡市)とひたちなか海浜鉄道特別賞の3賞を同時受賞しました。同作品を制作した「Teamタロー」の代表・矢満田海翔さんは「言葉にできないくらい嬉しい気持ちでいっぱい。今まで探究活動に取り組んできた甲斐がありました。」と感激した様子でした。

最優秀賞受賞チームは賞金に加え、副賞として後援企業からのドリンク1年分(365本)と旅行券、さらに「りんてつ賞」として、受賞チームがデザインした列車用ヘッドマークを鹿島臨海鉄道の実際の車両に掲出する権利を獲得しました。



3年間の探究学習の振り返り(生徒感想)

探究学習に取り組んで、いちばん大変だったのは、テーマを決めることでした。探究したことをテーマに結びつけるのに時間がかかり、何度もテーマを変更しました。この経験から、完璧すぎるテーマを最初から決めようとせず、少しでも興味があることから、調べながら深めていくことが大切だと思いました。また、なかなかいい案が見つからない場合は、先生や友達に相談すると新しい視点が見つかり、アイデアが広がると思います。悩むことも多いですが、最後までやり切ることで、自分の成長を実感できる学習になると思います。

進路×探究 ～探究活動が希望進路実現に つながった生徒の紹介～

本校は6年連続で国公立大学合格者が出ており、特にチャレンジ・プロジェクト重点校として2期目に入った昨年からは複数の合格者(昨年度6名、今年度5名)を輩出しています。探究活動の推進と生徒の進路実現にはどのような関係があるのでしょうか。合格者にお話を聞いてみました。

特別インタビュー



島根県立大学地域政策学部地域政策学科 合格 ^{てしま ひろと} 手島 大翔 さん(右)

はこだて未来大学システム情報科学部 合格 ^{すがや しゅんすけ} 菅谷 俊介 さん(左)

探究推進部長 門井 寿通がお話を聞きました!

探究を通じて得た経験

今日は、『高校時代の探究学習が進路にどのように生きたか』をテーマに話してもらいます。まず、お二人の探究のテーマは何でしたか？

手島 イノシシ・プロジェクトです。

菅谷 石岡市にイノシシの獣害問題があると知り、それを高校生で解決できたらいいなと思って始めました。

なるほど。では、そのプロジェクトを進める中で、力を入れたことや工夫したことは何ですか。

手島 解決方法として、イノシシ肉を商品化し、個体数を減らして被害を抑えることを考えました。その中でも、商品の試作段階に一番力を入れました。

試作の際に苦労した点は何でしたか。

手島 イノシシ肉の調理方法にはどんなものがあるのかを調べることと、ハンバーガーを作る計画だったので、どのバンズが合うのかを考えるのが大変でした。悩みを解決するために、地元のパン屋さんに行って、どんなバンズがあるかを質問しました。

菅谷 自分たちの考えをもとにアポイントを取り、直接話をしに行き、『この案はどうですか』と聞き、意見をもらうことは、これまで経験がありませんでした。

地域の人に自分たちから話しに行くのは新鮮だった。大変だったけれど貴重な経験だったということですね。

進路とのつながり

探究はうまくいったことばかりではなかったと思います。試行錯誤を繰り返したことや、人と関わったことは、自分の成長にどうつながったと思いますか。

菅谷 人前で話すことがとても苦手でしたが、クラスや生徒の前で自分の考えを話せるようになりました。

手島 以前は、自分一人でも何とかしようとしてしまうことが多かったです。でも探究を進める中で、自分だけではできないことが多いと分かり、先生や地域の方に頼るようになりました。

探究の学びは、大学合格とどのように結びつきましたか。

菅谷 面接で、探究でやってきたことを話せたのが大きかったです。部活動をしていなかったため、高校で頑張ったこととして探究を話せました。



手島さんはどうですか。

手島 もともとは私立大学を考えていましたが、探究を通して地域で活動することが楽しいと感じました。地域をフィールドに学べる学部を探し、公立大学である島根県立大学の地域政策学部を志望するようになりました。

探究が進路の選択肢を広げてくれたんですね。

今後に向けて

答えのない問いに向き合う大学での探究について、展望はありますか。

菅谷 大学に行っても、仲間と一緒に頑張りたいです。

手島 高校の探究をさらにレベルアップさせた学びになると思います。基礎はできているので、それを生かしたいです。



後輩へのメッセージ

最後に、後輩へ探究について一言メッセージをお願いします。

手島 自分は探究を一生懸命取り組んで、地域について学びたいと思うようになりました。探究に取り組むことで視野が広がり、進路の選択肢も広がります。ぜひ一生懸命取り組んでほしいです。

菅谷 最初は探究が何なのか分からず、面白くないと思っていました。でもやっていくうちに楽しくなりました。テーマ設定では自分が「やりたい」と思えるものを選ぶことが大切だと思いました。そして、やるからには、しっかり取り組むことが大事だと思います。

インタビューを通じて皆さんの成長を感じ、探究推進に関わってきて、本当に良かったと実感しました。本日はインタビューにご協力いただき、ありがとうございました。



高知工科大学理工学群 合格 はせがわ 長谷川 もあ さん

特別寄稿 「探究と進路」

私の探究テーマは「石岡をVTuberでPRしよう!」です。これは、もともとVTuberが好きで、先輩が探究成果発表会で発表しているのを見て、取り組みを引き継ごうと考えたことがきっかけです。私たちは、先輩たちが作成したキャラクターに加え、外国人観光客向けに英語を話す新キャラクターをデザインしました。

活動にあたっては、話し合いがうまくいかないこともありました。しかし、締め切りが迫る中で、日程を決め、活動できるときにできることを進めるという行動を重ねることで、何とか発表までに間に合わせることができました。

この経験を通して、以前は「行動して失敗したら嫌だな」という気持ちが強かったのですが、「失敗してもまだ大丈夫。とりあえず動いてから考えよう」と思えるようになり、積極的に行動を起こせるようになりました。

私は大学では、探究で取り組んだ内容とは全く別の分野を学ぶことになりそうですが、探究活動を通して身につけた、学年や国籍の異なる人と協力しながら物事を進める経験やコミュニケーション能力、体当たりでチャレンジする姿勢は、研究室に入った後も生かせると考えています。将来は研究職に就き、環境にやさしい製品開発に取り組んでいきたいと考えています。

後輩の皆さんには、計画をしっかり立て、早め早めに行動してほしいと思います。計画が遅れると、やりたいと思っていたことができなくなってしまうことがあるからです。体当たりで取り組んでいれば、先生方をはじめ、周りの人がきっと助けてくれますよ。頑張ってください。

地域×探究

1 ともしび 灯火フェスタ ～ここから また まちが動きだす～

3年目を迎える「みんなが知っている味噌をもっと身近にプロジェクト」として、家庭クラブ主催の地域活性化イベント「灯火フェスタ」を初開催しました。「味噌による地域活性化」をテーマに、生徒が企画・広報・運営・資金調達まで主体的に取り組み、多世代が楽しめる企画を実施しました。味噌ケーキパン販売や梅コーラ、着物体験、クラフト体験、動物ふれあいなどで会場は笑顔にあふれ、生徒・教員・地域の皆さまがつながり合う、温かな交流の場となりました。開催にあたり、市役所商工観光課の皆さま、一般社団法人RENATUSの皆さまをはじめ、地域の方々に多大なるご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。



2 高校生が見た“命のリアル”



近隣地域で深刻化する野犬の増加や多頭飼育問題に強い問題意識を抱いた2年生の班は、茨城県動物指導センター、動物愛護推進員の方々の協力を得ながら、地域に向けた啓発活動や譲渡会でのボランティアに積極的に取り組んでいます。自ら学び、考え、行動する中で、動物と人が共に安心して暮らせる地域づくりを目指して活動を続けています。

また、これらの実践を、市内中学生が集う「石岡市子ども会議」の場でプレゼンテーション発表を行い、多くの仲間の問題の重要性と自分たちにできる行動を伝えました。今回の発表は、地域の未来を担う生徒たちの主体的な姿勢を力強く示すものとなりました。

3 石岡市のゴミ問題に迫る！

石岡市をよりきれいにすべく、石岡市のゴミ問題に関心を寄せた2年生の班が、霞台厚生施設組合クリーンセンターみらい及び市役所生活環境課でフィールドワークを行いました。クリーンセンターでは、1人1日あたりのごみ排出量が全国平均や県平均を上回っている現状や、不法投棄の通報件数が年間100件を超えている事実を知り、地域の深刻な課題を実感しました。また市役所では、分別徹底や不法投棄防止に向けた注意喚起を継続して行っていることを確認しました。これらの調査を通して、市民一人ひとりのさらなる意識変革の必要性を強く感じたため、ゴミ問題への理解と行動を促すことを目的とした呼びかけCM等の制作に積極的に取り組んでいます。



4 石岡タローのグッズを作ろう!!



石岡市で長く親しまれてきた名犬 石岡タロー は、飼い主の帰りを駅で待ち続けた忠犬として語り継がれる存在で、今も地域の象徴となっています。この石岡タローを通して地域の魅力を発信しようと考えた3年生の班が、オリジナルグッズの制作を企画しました。自ら地元商店に向いて趣旨を説明し、3万円の出資金を得て缶バッジを制作。5月に石岡ふれあい祭りで販売し、得られた売上は募金として寄付しました。これらの取り組みは茨城新聞にも掲載され、生徒の主体的な行動と地域と連携した実践が高く評価されました。石岡商工会議所の皆さま、ご出資いただいた「本と文具たかぎ」さまをはじめ、ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。